

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195003132		
法人名	社会福祉法人 北見有愛会		
事業所名	グループホームライラックス		
所在地	北海道北見市川沿町145番地80		
自己評価作成日	平成31年2月28日	評価結果市町村受理日	令和元年5月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvosyoCd=0195003132-008
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

気持ち良く過ごすために、掃除がいきどき整理整頓され、事業所がいつも清潔であること。活動的に過ごせるよう、散歩やゲームなどをし、笑顔で暮らせるような工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに小学校や幼稚園がある住宅地に立地しているグループホームライラックスは、定員15名で以前学生アパートだった所を改修した2階建ての建物で、毎日職員による掃除が行き届き、事業所内は清潔に気持ちの良い環境が保たれています。「笑顔で暮らせる喜びを共に」の理念の基、職員は笑顔で利用者一人ひとりに声掛けを行い、疎外感を持たせないように配慮しながら利用者の状況や希望を把握しています。職員会議の中で利用者のカンファレンスを行い、利用者のQOL維持・向上によりその人らしい生活を送れることにより、人生の満足度を上げることに繋がるように話し合いを行っています。また、行事やレクリエーションなどは利用者一人ひとりの楽しみは何かを考慮し、利用者と共に楽しみを分かち合ったり、利用前に行っていた日常的な事は出来る事できない事を見極めてできる範囲で生きがいとなるように支援しています。事業所は、長年継続して働いている職員が多く、管理者は親身に相談に乗ったり、介護技術がスキルアップするよう適切な指導を行い、職員にとって働きやすい職場環境となっています。認知症の症状を緩やかにし、最後まで利用者が自分らしく過ごせるよう心掛け取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者も交えて作成した事業所理念は見やすい場所に提示し、実践する支援の根幹であることを常に意識できるよう、目標達成に努めている。	利用者も交えて開設時に作成した理念は、玄関、食堂等に掲示しています。理念の実現を目指して、一人ひとりに合わせた支援の仕方を考えながら実践に繋がっています。職員全員が日々の利用者との関わりの中で意識して取り組んでいます。	事業所が理念に込めた思いを通信などで周知するとともに、利用者が日々笑顔で暮らせるよう、理念を理解して頂く為の工夫を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などを通じ、地域住民の方には、施設が近くにあることを認識していただいております。気軽に声をかけていただいております。	地域とは日常的に散歩や買い物時に気軽に挨拶や会話を交わっています。近隣に幼稚園や小学校があり、運動会などを見学しています。社協や外部ボランティアを活用しパルーンアートや民謡・三味線など利用者の楽しみとなるように繋がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会活動や、消防避難訓練時に認知症高齢者の症状や対応等わかりやすい言葉でお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・職員・事業所の近況報告や相談・連絡などを密に行う事で、町内会側から相談など率直な意見の交流に繋がっている。ホーム会議で職員が内容確認をしながらサービスの維持向上に努めている。	運営推進会議は、2か月に一度定期的に開催し利用者家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等などの参加を得て利用者状況報告や行事予定、事故報告等詳細に報告し、活発な意見交換を行い適切な運営に繋げるよう努めています。また、全利用者家族に案内と議事録を送付し、情報提供を行っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居前から、確認や報告はもちろん随時相談や確認の連携を図り入居生活がスムーズにいくよう取り組んでいる。運営推進会議にも出席して頂きその都度報告している。	市の担当職員とは、運営推進会議に出席して頂き指導や情報交換をしています。また、毎月空き情報・待機状況などの情報報告や相談を行い良好な関係構築に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置、体制を整え、身体拘束禁止の対象となる具体的な行動や不適切ケアについて内部研修や毎月の会議でも確認し合い、日々の支援の中で全職員が意識できるよう取り組んでいる。	職員会議では年3回ほど内部研修を行っており、管理者や職員間で適切な言葉による行動抑制や禁止行為の具体的な事例などを話し合い、身体拘束の無いケアに取り組んでいます。管理者は気づいたことはその都度注意を行っており、利用者の安全にも考慮した指導が行われています。	身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアに向けての対策・検討を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会の設置、体制を整え、虐待の具体例や防止策について内部研修を行い、毎月の会議でも毎回と言っていいほど、不適切ケアについて話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用されている方がいる為、研修会など積極的に参加し知識を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人やご家族の意向を確認しながら、分かりやすい言葉で丁寧な説明を心がけている。解約や改定時も同様に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に会話や表情などから気持ちをくみ取れる関係作りに努めている。ご家族には来所時に近況報告をし、現在の状態をお伝えしている。	家族の来訪時等に利用者の生活状況を伝えたり、意見や要望を聞いて、情報の共有化を図るよう努めています。年4回の通信など利用者の活動を掲載しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常の会話の中で運営に関する質問や意見を自由に話し合える環境作りに努めている。	気軽に話し合いができる雰囲気を作り、日々の申し送り時や会議の中で協議し意見や提案を運営に反映しています。管理者は職員のスキルアップに繋がるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力にあった給与内容の見直しを行うと共に、随時有休休暇を取ることができるような勤務の調整と環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人がスキルアップできるように、研修会やグループ内での勉強会にできるだけ参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係グループホームとの交流は日常的に行われており、勉強会などの場面では活発な情報交換も行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅や病院などを訪問し、状態を把握した上で、ご本人からの意見や意向を確認しながら不安を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの葛藤や入居してからの不安、要望などについて、話を傾聴し些細なことでも相談していただけるようお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の希望を伺いながら、分りやすい言葉で説明し、一緒に考えていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に喜怒哀楽を共にし、時には人生の先輩として、職員の悩みの相談にのってもらったりと、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話にて状態報告を行い、ご家族と連携をとりつつ、過度の負担にならない協力を得る事で、ご本人と一緒に支える支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が、気軽にホームに遊びに来れるような雰囲気作りに努めている。	お墓参りやお正月、買い物などの外出の希望は、家族の協力を得ながら支援に努めています。利用以前からの習慣を大切に新聞や理容・美容室など継続して利用できるように支援しています。友人や知人が来訪した場合は、ゆったりと寛げる様に配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係が築けるよう配慮している。また、職員が会話の橋渡しをすることで、孤立しないよう見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に支え合った者として、出会えたことに感謝していつでも気軽に連絡していただけるようお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や生活歴、生活習慣を参考にご本人に確認しながら職員同士で話し合い、利用者本位の支援に努めている。	職員は、日々利用者個々に声掛けを行い利用者の態度や身体の動きを見極め、利用者の意向や希望の把握に努めています。また、意向等の把握が困難な場合は、家族に相談したり、職員間で十分に話し合いを行い、本人本位になるように検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からの情報を元に馴染みの生活や経験を生かした活動の支援が行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各記録や申し送りを活用し、その日の様子を確認しながら現状把握を一人一人の能力に合った活動ができるよう話し合っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議では入居者の状況を確認し合い、課題分析を行う中で支援内容がわかりやすいか、ご本人ご家族の意向に添えているか、様々な角度から検討し、介護計画を作成している。	利用者や家族の思い、要望の把握に努め、職員間で意見や気づきを話し合い、具体的な介護計画を作成しています。日頃から利用者の状態や家族の希望などに変化がないかを確認しながら、必要に応じて見直しを行い、現状に即した計画となるように取り組んでいます。	日誌の記載が介護計画に基づいた記録となり、更なる利用者の生活向上の改善に繋がるよう期待しています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録は時系列に一日の生活の様子や、ご本人の言葉などありのまま記入し、情報を共有する事でケアの振り返りや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊時にはご家族に状態説明を充分に行い、困難時には夜間でも迎えに行くなど柔軟な対応をしている旨お伝えしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の近隣住民の方に、災害発生時協力支援者になって頂き、入居者が地域において安心して生活が送れる様取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで通院していた病院の継続や、状況に合わせ医療機関の追加や、場合によっては往診など状態にあった支援をしている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診や往診等、医療機関と連携し適切な医療が受けられる様に支援しています。かかりつけ医の受診は基本事業所が対応し、場合によっては家族も同行しています。また、週1回の法人の看護師により利用者の健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の看護師による、健康チェックを行っている。職員も正確に日々の状況を記録、説明をし、適切なアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供の際に認知症状について、具体的に情報を伝えたり、入院中は状態の把握や今後考えられることなどの相談、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からかかりつけ医やご本人ご家族と十分に話し合い、ご本人が最期の時まで望むケアを受けられるよう、関わる者全員で共有している。	重度化や終末期については、契約時に利用者家族に説明しています。利用者の状態や気持ちに向き合いながら、状況にあった支援に努めています。終末期には延命措置か看取りかを利用者や家族の意思・意向を確認し医療機関と連携しながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が緊急時対応できるよう、マニュアルを整備し、研修を行い緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の実践的な避難訓練を行うと共に、近隣住民の方に災害・緊急時協力支援者として、災害時には昼夜を問わず協力してもらえよう体制を整えている。	年2回夜間想定避難訓練を実施しており、一回目は消防立会いで、二回目は自主訓練を行い近隣住民の参加も得られています。大規模停電の際は、オール電化でないため、大きな支障がありませんでしたが、後に検討され不足分については整備されています。	災害は何時起こるか予測できないことから、あらゆる災害に対応できるように、職員間でシュミレーションを行い、更なる利用者の安全・安心に繋がるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する尊敬の念を持ちながら、なれ合いの関係とならないよう、個々の人格を尊重した対応を心がけている。	なれ合いを防ぎ、利用者には尊厳をもって接するよう努めています。職員は利用者個々に日々の声掛けを行い疎外感を持たないように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や意見を尊重し、それぞれの興味や話題の提供、選択肢を用いるなど混乱せず、自己決定ができるよう支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活習慣やペースにあった日常の支援に配慮し、その人らしい暮らしを安心して過ごして頂けるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を優先する事で、おしゃれや身だしなみに楽しみが持てるよう好みの美容室や理髪店への支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューや食材の話から、好みを聞いたり食事の思い出を聞きながら準備をしたり、おしぼりたたみやお盆を拭きを手伝っていただき、満足感を感じていただいている。	毎食、おかずは系列の配食サービスを利用し、ご飯・汁物は職員が調理しています。利用者の状況に合わせて、刻みやトロミに配慮し、楽しんで食事できるように支援しています。おやつは、芋団子やたこ焼きなどを職員と一緒に作っています。また、誕生会には手作りケーキで楽しい時間を過ごしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、食欲低下が見られる際には、好みの物や摂取しやすい物を用意したり状態によっては主治医に相談するなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活習慣や状態に合わせた口腔ケアを行い、異常が見られる場合には、歯科受診など個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけ誘導や介助の継続をする事で、ADLや自尊心の維持・向上につながる様対応している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、主にリハビリパンツですが布パンツ使用の利用者もおり個々の状態に応じてさりげなく誘導するなどトイレでの排泄を促し自立に向けて支援しています。夜間は安全に配慮しポータブルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用と、水分・食事摂取状況を把握し、かかりつけ医の指示に基づき、運動や腹部マッサージ、便秘薬の調整を行い便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴をする様にしているが、気分がのらない時には、無理強いせず日時を変更したり、職員交代するなど柔軟に対応している。	利用者の希望に合わせて週2回以上の入浴支援に取り組んでおり、ゆったりと入浴を楽しんでもらうように季節にあわせた入浴剤を使用しています。拒否があった場合はタイミングを図ったり、日程を変更したりと利用者の状況に合わせて対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、眠れない時には職員と話し不安な気持ちを取り除くなどの支援をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の確認と整理を行い、用法・容量や副作用などを理解し、症状に変化がある場合には速やかに医療機関に報告できるよう状態把握に努める。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や日常会話・動作などからお盆拭きやタオルたたみなどそれぞれにあった役割や散歩やゲームなど楽しみが見つけられるよう取り組んでいる。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や状態にあわせた外出支援をしている。天気の良い日はご近所の散歩や、お花の水やりが日課となっている。	天気の良い日には、近所の散歩やお花の水やりが日課となっています。つつじ公園や菊祭りに出かけ外食などをして利用者の楽しみになるよう工夫しています。また、系列のゆうあい夏祭りへ出掛けたりしています。利用者家族の協力の基、受診や買い物の帰りに食堂へ立ち寄りたり、利用者の外出意欲を支えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望もあり、ほとんどの入居者はホームで管理しているが、場合によってはご家族と相談の上、少額のお金を所持されている事もある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、入居者自らが話したい相手と気軽に電話できるようセッティングしたり、お孫さんと手紙のやり取りのお手伝いもしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターで花を育てたり、季節に応じた装飾をする事で、季節を感じる空間になる様心がけている。また、換気や加湿器を使用するなどして、室温調整や湿度を保ち、心地よく過ごせるよう出来る限りの配慮をしている。	利用者が集まるリビングは家庭的な雰囲気の中、ゆったりと過ごせる空間になっています。壁には季節に合った手作りカレンダー、折り紙、行事の写真飾り楽しい雰囲気となるように工夫されており、それを見ながら廊下を歩いたり自分のペースで思い思いに過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に共用スペースを利用され、気のあった入居者同士で楽しく過ごされたり、また居室で過ごされる時には、一人の時間も大切にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの品を持ち込んでいただくことにより、環境の変化による不安を最小限に抑え居心地よく過ごされるよう支援している。	居室には利用者が使い慣れた寝具や収納ケース、イス、テレビなどが持ち込まれその人らしく過ごせるよう工夫しています。仏壇のある居室には毎朝、職員と一緒にご飯をお供えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態や状況に合わせ、さりげない声かけや見守りや誘導と、環境作りに配慮し、できる限り自立した生活が送れる様支援している。		